

発 表 要 旨

題目： アンドロイドと哲学

氏名： 石黒 浩

所属： 大阪大学大学院基礎工学研究科・ATR 知能ロボティクス研究所

自分とそっくりのアンドロイドを作ることは、工学的なチャレンジであると同時に、自分とは何か、自己とは何か、人の存在とは何かについて多くのことをおしえてくれる。

開発したシステムの概要は次の通りである。自分をモデルにしたアンドロイドを製作し、遠隔操作によって、遠隔地からアンドロイドを操作できるようになっている。操作者はカメラが備え付けられたパソコンの前に座り、カメラに向かった話をする。カメラは、操作者の唇の動きや頭の動きを画像解析によって検出し、声とともに、アンドロイドに送る。アンドロイドは、自律的に生成される目の動きや息をしている動きに加えて、送られてきた音声と頭部の動き情報を再生する。このシステムを使って5分ほど話をする、訪問者（アンドロイドと対峙する人）も操作者も、アンドロイドに適応できる。すなわち、訪問者はアンドロイドを私本人だと感じる用になり、操作者はそのアンドロイドの体が自らの体であるかのように錯覚する。このようにこのアンドロイドシステムを用いれば、自らの存在を遠隔地に転送することができる。

このアンドロイドを使って、これまでに様々な実験を行ってきた。特に興味深かったのは、オーストリアの田舎町のカフェに3週間アンドロイドをおいたことである。カフェを訪れる人も、一旦話を始めれば、アンドロイドを人間的な存在として受け入れることができた。このような実験は、人間の存在とは何かを深く考える機会を与えてくれる。

本発表ではこれまでのアンドロイド研究を紹介しながら、アンドロイドを通して浮き上がる人間の存在に関する疑問について議論する。